Ⅴ章　調査研究・学会発表実績

１　その他の調査研究事業

平成28年度

学会等の名称	題目・論旨（担当課名）	著　者　名 （発表者名）等
第62回 大分県公衆衛生学会	題目：宇佐地区における「おくすり教室」の実施結果について ～健康サポート薬局推進に向けた取組み～ 論旨：健康サポート薬局は、地域包括ケアシステムの中で地域住民の相談役としての役割が期待されているが、現状では求められる要件を全てクリアしているのはごく一部の薬局に過ぎない。当所では、平成２５年度から地元薬剤師会と協働して地域住民を対象とした「おくすり教室」を開催しているが、今年度は、宇佐市をモデル地区として、教室に参加した高齢者及び薬局に対し、健康サポート薬局推進の一助とするためのアンケートを実施した。その結果、宇佐地区における高齢者の服薬状況及び薬局への要望、薬局の現状を一部把握することができた。今回の調査結果を基に、薬剤師会と連携し、要件クリアのための課題を解決していくことで、薬局本来の使命と役割を果たす「健康サポート薬局」を推進し、地域包括ケアシステムの構築に貢献したい。 （衛生課）	○ 島崎　省吾 奥野　隆啓 橋口　祥子 高畑　裕 荒金真理子 北村　浩一 大神　貴史
	題目：健康寿命延伸を目指した事業所の健康づくり推進 ～北部圏域事業所健康応援プロジェクトの取組を通して考える～ 論旨：健康寿命延伸を目指し働き盛り世代の健康増進を図るため、平成27年に地域・職域関係者で組織する事業所健康応援プロジェクトを設置し、関係機関が一体となり事業所の健康づくりを支援する方策について協議し取組を進めてきた。その結果、健康経営登録事業所の増加や事業所の健康管理体制の充実に繋がっている。 今後、事業所の健康づくりを効果的に推進するためには(1)地域・職域保健を担う関係機関と協働で事業推進を図る(2)事業主へのアプローチと事業所間を繋げる仕組みづくりが必要であることがわかった。また、保健所は各機関の機能強化が図れるよう調整するとともに、県や市の健康寿命延伸施策との連動及び新たな施策化に繋げるよう協議をリードしていく役割があると考察した。 （地域保健課）	○ 竹永　裕子 小笠原　光 内田　弘子 首藤　睦子 遠入　玲子 大神　貴史
	題目：重症小児の在宅療養を継続するための資源と条件 ～地域の児の姿と家族の声からみた新たな課題～ 論旨：様々な疾病や障がいを有する重症小児の支援を重ねる中で、みえてきた重症小児の現状とその家族が抱える課題について、児の姿と家族の声をまとめ、重症小児の在宅療養を継続するために必要な資源と条件を考察した。結果として、（１）受診同行サービスの充実（２）特別支援学校での訪問看護師の利用促進（３）小児慢性特定疾病日常生活用具の種目及び給付対象者の見直し（４）一時的に入所可能な施設の整備（５）訪問看護事業所及び相談支援事業所の相互交流及び人材育成等の必要性が明らかとなった。以上の重症小児の在宅療養を継続するための資源と条件について、県や市との各支援協議会等においても提言し、今後も行政機関の保健師として、重症小児の状態に応じた在宅療養を継続できるよう関係機関と連携して更なる支援を行っていく。 （地域保健課）	○ 甲斐ちひろ 安部　志織 竹永　裕子 内田　弘子 遠入　玲子 大神　貴史
	題目：筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者における在宅療養支援 ～病期に応じた保健所保健師の役割～ 論旨：筋萎縮性側索硬化症患者の療養状況や課題、保健師の支援状況をALSの病期別に分析し、在宅療養支援における保健師の役割を①患者家族の病気への受容過程に寄り添い、療養への意思決定にかかる支援、②療養生活の困難や課題を把握し、安全に生活できる医療・療養環境の調整、③QOL向上への支援、④家族、支援者へのサポートの4点に整理して、考察した。 （地域保健課）	○ 飯田　育子 中西　聡美 寳河原靖子 八十田ちえみ 原田　亜衣 佐藤　裕子 遠入　玲子 大神　貴史
平成28年度 食品衛生監視員・と畜食鳥検査員・狂犬病予防員研究発表会	題目：白菜浅漬けからの腸管出血性大腸菌検出事例報告及び白菜の細菌汚染状況と一次洗浄・殺菌の効果検証について 論旨：福岡県が実施した食品の食中毒菌汚染実態調査（厚生労働省委託事業）において、当管内の業者が製造した白菜の浅漬けから腸管出血性大腸菌が検出される事例が発生した。調査の結果、明確な汚染原因は特定できなかったが、検出菌の病原性遺伝子型の結果から、原料である白菜の農場等での汚染の可能性が強く示唆された。これを受けて、白菜の細菌汚染状況実態調査と一次洗浄及び殺菌の効果についての検証を行った。結果、検査に使用した白菜全てから大腸菌群による汚染が確認された。また、次亜塩素酸ナトリウム溶液による殺菌効果のばらつきが、一次洗浄の実施により小さくなることが確認された。 （衛生課）	○ 橋口　祥子
	題目：自家製炭酸水の製造における衛生管理について（第2報） 論旨：現在、県内でのイベント等において、様々な品目を提供する業者が増えてきている。昨年度、当保健所管内の実演販売業者から、市販の家庭用炭酸水製造機（以下、「メーカー」という。）を用い製造した炭酸水を提供したい旨の相談があった。食品安全・衛生課と協議した結果、ミネラルウォーターを用いた製造であれば、実演販売の品目として認めることとした。しかし、製造された炭酸水の汚染実態が未知であることから、様々な条件で炭酸水を製造し、汚染の実態を検討したが、炭酸水製造における汚染は確認できなかった。しかし、使用したミネラルウォーター自体が汚染されていたため、今後、業者に対して適切な指導を継続していく。 （衛生課）	○ 奥野　隆啓 衛生課食品衛生・薬事班検査担当

学会等の名称	題目・論旨（担当課名）	著　者　名 （発表者名）等
第38回 大分県看護研究学会	題目：精神障がい者地域移行支援に向けた取組 ～3年間の研修会の評価と今後のあり方を考える～ 論旨：平成25年度から管内のB精神科病院内において、地域の関係機関と協働し、入院患者と病院職員を対象にした精神障がい者地域移行支援研修会（以下、研修会）を実施している。本研究では、平成25年度から27年度に実施した研修会の取組評価と今後の方向性について、①病院職員の退院支援に対する意識の変化や意欲の向上、②患者の退院や地域生活に対する意識の変化、③地域の関係機関の連携強化の3点に整理して考察した。 （豊後高田保健部　地域保健課）	○ 松原　麻夏 植木小百合 泥谷　治美 疋田　利恵
平成28年度 宇佐・豊後高田地域研修会 看護研究発表会	題目：高齢の結核患者を対象とした地域ＤＯＴＳ ～服薬支援者の拡大に向けた取組～ 論旨：保健所では、通院治療中の結核患者に対して、治療完遂を目的に地域ＤＯＴＳに取り組んでいる。Ａ氏は妻と二人暮らしで、認知症による記憶障害があったため、服薬開始時から、周囲の関係者が支援者となり得るように働きかけを開始した。服薬支援を通して妻と密に関わるうちに、妻が軽度の認知症を発症していることを関係者が把握した。このような状況を受けて、支援者が週4回介入するといった地域DOTSの支援体制を整え、実情に合った支援ができた。今後は、高齢者の結核患者の支援において、早期からネットワークを構築し、患者を支える体制を整えていくことが求められる。 （地域保健課）	○ 簀河原　靖子 中西　聡美 八十田ちえみ 原田　亜衣 飯田　育子 佐藤　裕子 遠入　玲子 大神　貴史